

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.967
2022.8.7-14

発行 日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

市民アンケート実施中

回答はこちらから▶



新型コロナ「第7波」で緊急申し入れ 命を守る対策を

新型コロナウイルスの「第7波」は、経験のない感染急拡大となり、7月26日にはさいたま市の新規陽性者数が2504人と発表されました。党市議団は7月29日、市に対して「新型コロナウイルス『第7波』から



市民の命を守るための緊急申し入れ」を行いました。「申し入れ」では、医療や保健所の崩壊を防ぎ、コロナ患者もコロナ以外の患者も必要な医療を受けられる体制を確実に確保し、市民の命を守る対策が急務であるとして、危機感を持ってとりくむよう求めました。申し入れした対策は次のとおりです。

- 1 症状のあるすべての人が速やかに検査、診療を受けられるよう、財政支援を行い、発熱外来対応医療機関を広げること。
- 2 埼玉県PCR検査等無料化事業について、県と市で協力して検査場所を大幅に増やし、コロナの収束まで継続すること。検査の重

要性を積極的に広報し、受検を促すこと。

- 3 医療機関、高齢者・障がい者・子どもの福祉施設・事業所、学校等において、定期検査の実施対象をさらに拡大すること。また、定期的なPCR検査を行う事業所への支援を行うこと。
- 4 ワクチン接種の3回目、4回目を迅速に進められる体制づくりに努めること。また、希望する市民が4回目接種を受けられるよう国に求めること。
- 5 感染の急拡大に即応できるよう、保健所職員体制を早急に強化すること。他部署からの応援は限界に近いという声があることを

中央区

与野中央公園の調整池工事がはじまる

7月19日、埼玉県さいたま県土整備事務所主催で「与野中央公園調整池建設工事に関する説明会」が行われ、たけこし連市議が参加しました。

説明会では与野中央公園に新設される調整池（雨水を一時的に貯めて河川への雨水の流出量を調節することにより洪水被害の発生を防止する施設）の工事予定などが報告されました。新設される調整池は河川調節容量が約4万5000m³、約1.5ha（深さ4.6m）の規模の予定で、1時間あたり50mmの降雨に対応し、完成は2026年を予定しています。

与野中央公園に隣接する鴻沼川は台風や集中豪雨などの影響で度々、周辺地域に洪水被害を生じさせており、地域住民が対策を求めています。党市議団も山崎あきら元市議の時代から現在まで繰り返し調整池の早期整備を求めてきた経過があります。質疑応答では「1時間あたり50mm対応で十分と考えているか」「調整池ができる



与野中央公園調整池整備予定地を視察するたけこし市議

ことで周辺の洪水被害がなくなると考えていいか」などの質問が出され、県は「やれる範囲で最大限の調整池整備を実施するのでご理解いただきたい」と回答しました。

たけこし市議は「求めてきたことがようやくかたちになりうれしい。もっとも大切なのは周辺住民の洪水被害をなくすことなので、調整池に頼るだけではなく市としても対策を実施することを求めている」と話しました。

踏まえ、保健所体制自体の抜本的な拡充を行うこと。

- 6 急増する救急出動要請に十分対応できるよう、職員体制の強化、体制整備を図ること。
- 対応した保健福祉局長は、「国や県の動向

を見ながら、市としてやれることを工夫しながら取り組んでいく」と述べました。党市議団は、市民の不安に応えながら、命を守る対策が進められるよう、引き続き市に求めています。

\ すすめよう / 住みよいまちづくり

桜区 秋ヶ瀬緑道のベンチ改修が実現



中浦和駅から秋ヶ瀬公園を結ぶ、鴻沼川左岸の「秋ヶ瀬緑道」は、桜の名所で市民に愛されている埼玉県所管の遊歩道です。終点の桜橋の手前にはいくつかのベンチがありますが、数年前からボロボロの状態、使用不可能でした。

久保みき市議は、本市の公園所管のちからも借り、県に改善を強く求め続け、ようやくきれいになりました。

中央区 八幡橋のベンチ改修が実現



たけこし連市議が求めてきた中央区にある八幡橋の修繕が完了しました。このベンチは経年劣化が進み、地域住民から修繕の要望が出されていました。今回、修繕されたベンチは従来素材から経年劣化がしにくい素材へ変更され、綺麗な状態で長く使うことが可能です。たけこし市議は「春には鴻沼用水に咲く桜が綺麗なので、修繕されたベンチで楽しんでほしい」と話しました。

自治体要請キャラバン

現場の声にこたえる市政へ



◀出席するとば市議

懇談では、国民健康保険税について医療労働組合連合会から、介護保険について社会保障推進協議会から、障がい者の暮らしについて保護者から、保育所について保護者と保育問題協議会から、生活保護について生活と健康を守る会から、それぞれ切実な実態が語られました。

保育所問題では、「市は待機児童ゼロと発表しているものの、実際には利用保留児童が1328人おり、なぜ公立保育所を半減するのか」との声がありました。

また、親亡き後の障がい者の暮らしについて、「入所施設を民間任せにしていることで重度の障がい者がはじかれている実態をつかんでいるのか」と厳しく市の姿勢が問われました。とば市議は「本市は、他市に比べて市民の暮らしの実態と市政がかけ離れている。現場（市民）の声をよく聞き、その声にこたえる市政への転換が急務。議会でもとりあげていきたい」と述べました。

7月19日、埼玉県社会保障推進協議会（県社保協）による「2022年自治体要請キャラバン行動」が行われ、とばめぐみ市議が参加しました。

県社保協が県内全市町村にあらかじめアンケートを送り回答を集約し、それをもとに「社会保障の充実を求める要望書」を送り、その回答に基づいて各市町村で懇談を行うというのが自治体キャラバンです。さいたま市との

県立高校統廃合「県民コメント」募集

埼玉県が、県立高校の統廃合計画案を発表しました。市内では岩槻高校と岩槻北稜高校、浦和工業高校と大宮工業高校が対象です。県は、ホームページで県民コメントを募集しています。締め切りは8月18日（木）までです。ぜひご意見をお寄せください。



あなたの身近な議員です



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保 みき



市議(南区)

金子あきよ



市議(北区)

神田よしゆき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(中央区)

たけこし連